

創発 Mail Magazine

創発は“インキュベーション”のプロ集団。～問題解決のための新しい戦略・進化～

当メールマガジンは、日本総研/創発戦略センターの연구원と名刺交換させていただいた方に配信させていただいています。>> [登録解除はこちら](#)

当メールマガジンは、HTML形式で配信させていただいております。うまく表示されない方は>> [こちらからご覧ください](#)

| [日本総研/創発戦略センター](#) | [연구원紹介](#) | [セミナー・イベント](#) | [書籍](#) | [掲載情報](#) |

今号の湯元メッセージはお休みとさせていただきます。



創発戦略センター
コンサルタント
[宮内-洋宜](#)

創発eyes

... 연구원による創発最前線

自動運転を実現する機械の目

今や自動車のホットトピックは、「低燃費」から「ぶつからない車」に移っており、自動車各社からは、衝突回避ブレーキ機能を搭載したモデルが次々に発表されています。自動車事故による損害は大きいため、万が一のミスをカバーしてくれる先進運転支援システムは消費者にとって魅力的な機能です。中には渋滞中に先行車を自動追従してくれるモデルも現れており、運転負担の低減も図れるようになりました。そしてさらに、現在では「自動運転」が近い将来に実現することへの期待が高まってきています。

自動運転を実現するためには、人間が行っている運転動作である「認知」「判断」「操作」を機械によって代替する必要があります。このうち「認知」に使われるのが、各種のセンサーです。自動運転のための実験車両には様々なセンサーが搭載され、人間の目の代わりを果たそうとしています。代表的な技術はカメラでしょう。人の目と同じく左右に2つのカメラを使ったステレオカメラがよく使われており、微妙な画像の違い（視差）を利用して、対象までの距離を認識します。最近では単眼のカメラで距離を検出する工夫も行われています。

自動運転に用いられるセンサーは他にもあります。超音波センサーは比較的近距離にある障害物を検知するために使われます。コウモリが暗闇で飛ぶために超音波を発するのと同じ原理です。音波ではなく、光を発してその反射で対象を認識するセンサーには赤外線を使ったレーザーレーダがあります。電波を使うものはミリ波レーダと呼ばれ、長距離まで届くのが特徴です。

こうした各種のセンサーには一長一短があるため、コストと相談しながら適宜組み合わせることが必要となります。逆に言えば、まだ決定打と言える技術が定まっていない状態であり、しばらくは試行錯誤が続くでしょう。

センサー分野では、部品メーカーを中心に様々なソリューションが提案されています。この分野ではセンサーのハードウェアとしての性能だけではなく、画像処理といったソフトウェアも重要であるため、メーカーとしての総合力が問われます。アライアンスを含めた多面的な取り組みが必要になります。自動運転の鍵となる機械の目、日本のメーカーにはぜひとも存在感を示してほしいものです。

～お知らせ～

日本総研では、個人向けの地域交通サービス創出を目指すコンソーシアムを立ち上げました。自動運転技術を活用したオンデマンドの交通手段と外出促進の仕組

みによって人の交流を活性化させることで、地域活性化を図る検討を進めています。

詳しくは[こちら](#)。



創発戦略センター
マネジャー
[赤石 和幸](#)

研究員エッセイ

コミュニティと連携した移動需要の創出

毎週、土曜日と日曜日に有明テニスの森で朝練をしている。

朝練では近所に住むテニス仲間と朝7時にコートに集まり、9時まで丸々2時間テニスを楽しむ。家族がいるメンバーも少なくないため、土日の早朝時間だと、家族に負担がなく続けられる。朝練開催にあたって便利な機能がFacebook（FB）だ。

朝練メンバーには全員で50人位登録している。FBで前の週までに朝練の連絡がなされ、前日までに参加登録を行う。参加登録が4人以上であれば開催、それ以下だと延期。一方で12人以上になるとコートを2面借りるという具合だ。参加登録はイベント設定画面をタッチするだけでよい。

FBがなかった以前は、朝、せっかく頑張って起きて行ったのに誰も来ていないということや人数が多過ぎてテニスができないということもあった。開催する側からすると、前日までに参加人数が確定できる。メンバーも“誰々がくるから自分も参加しよう”という動機も働く。また、FB上でのやりとりが活発化すると、参加率も高まる。また、ちょっとしたイベント設定の工夫でも参加人数は増える。

ちなみに、今週は「歡迎你下次再来Asaren!」と全部中国語で案内があり、平日にFB上で“中国で開催するの？”とか冗談交じりのやりとりもしながら、朝練の場で楽しい時間を過ごしている。こういったつながりもあり朝練はかれこれ、5年以上続いている。こんなに朝早いのに集まるのは、まずはテニスしたい、上達したいといった単純な動機だ。趣味を継続するのは動機づけや、それを実現する環境作りが大切だ。次に仲間がいるから、参加を期待されるからというのもし少なくない。SNSのようなバーチャルな付き合いもあるが、やはりリアルなコミュニティに勝るものはない。朝練が開催される土日の早朝は何もなければ寝ている時間だ。そこに、朝練というイベント、テニス仲間というコミュニティ、そしてFBというツールがあることで、我々の行動変容が起き、新たな移動需要が創出されたとも言える。

需要が顕在化されているところでのビジネスは多くあるが、需要そのものを創出する仕組みは少ない。現在、創発戦略センターは、COSMOSコンソーシアムという移動需要を創出する社会システムづくりを目指している。朝練というのは小さなコミュニティでの行動変容に過ぎないが、需要創出がなされる小さな事例なのだと思う。ちなみに昨年はテニスの調子が良く、所属する地区の団体戦で優勝、個人戦ダブルスで準優勝だった。今年は朝練とのFB活用で団体戦と個人戦ダブル優勝を目指そうと思う。

編集後記

昨日は節分だったので、我が家でも豆まきをしました。

去年は鬼の面に怖がっていた子供も、今年は慣れたようで、鬼の面を付けた私に楽しそうに豆を投げていました。

今年一年、子供が元気に育ってくれることを祈っています。

株式会社日本総合研究所 創発戦略センター Mail Magazine（隔週火曜配信）

このメールは創発戦略センターメールマガジンにご登録いただいた方、シンポジウム・セミナーなどにご参加いただきました方、また研究員と名刺交換した方に配信させていただいております。

【発行】 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター

【編集】 株式会社日本総合研究所 創発戦略センター編集部

※記事は執筆者の個人的見解であり、
日本総研の公式見解を示すものではありません。

〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1

TEL：03-6833-6400 FAX：03-6833-9479

<配信中止・配信先変更・配信形式変更>

<http://www.jri.co.jp/company/business/incubation/mailmagazine/>

Copyright © 2014, The Japan Research Institute, Limited.